

五戸小学校ポプラの会（ことばの教室親の会）

親の会活動報告

五戸小学校
事務局 小鹿 道子

まっすぐにすくすくと、ポプラのように育てほしいという願いをこめて名づけたポプラの会も、4年目に入りました。今年度も、会員以外にことばの教室を応援してくださる賛助会員の皆様も増え、あわせて45名になりました。昨年度と今年度の活動を紹介します。

どの企画も、会長さんはじめ役員の方々のご理解とご協力によりスムーズに運営されています。

平成19年度活動報告

- 4月25日 総会
- 6月8日 学習会&お茶会
「that's ことばの教室」
- 7月22日 親子レクリエーション
各種おにぎり&デザート調理
親子学習会
「夏休みの難関、読書感想文を書くために」
- 2月28日 学習会・昼食会&座談会
「質問に答えて」岩間和章校長

平成20年度活動（予定）

- 4月25日 総会
- 7月2日 学習会&昼食会
子育てについて本音で語ろう
- 7月21日 親子レクリエーション
オムライス&サラダ調理
親子学習会
「自由研究・工作のやり方」
- 2月26日 学習会・昼食会&座談会
「質問に答えて」木村功教頭

「子どもの目線で対話を」

五戸小学校ポプラの会
M子

夫婦共働きの家庭が増えていますが、子どもと接する時間が少なく感じるのば私だけでしょうか？学校もしくは親が本当に教えなくてはいけない教育というものを見直さなければならぬと思います。勉強以外の「礼儀作法と他人を思いやる行動と態度を忘れず」が我が家のルールです。また、「お金では買えない思い出」も大切にしています。

親が仕事で疲れているからといって面倒がらず、子どもと一緒にやって共感し、心から楽しむことです。私も親になって感じることは、思い出はいつまでも忘れずに覚えているということです。

大人になるにつれて、競争社会に入り、苦しいことなどたくさんあると思います。親が子の一番の理解者で、子どもが親に相談できる環境がしっかりしていれば、若年犯罪を未然に防ぐことができるのではないのでしょうか。もう一度原点に戻って、タイムスリップし、「昭和の頃の時代」を考え直してみませんか。心からそう思います。

次に、ことばの教室に通っているわが子の感想を載せました。子どもが楽しそうに通っているので、私も安心しています。

「僕がことばの教室に通い始めたのは、小学校3年生の頃なので、今年で4年目になります。その頃は算数がとても苦手で、問題をやれずに時間が過ぎ、授業が終わってしまい、算数がイヤになっていました。通い始めは、教室を一人で抜けていくのはイヤでした。でも、ことばの教室では、先生が分かりやすく教えてくれました。今では算数が楽しくなりました。」

西つがることばと心を育む会

百人分の「一人」に

森 由紀子

ある日のことです。

知人から、こんな問題を出されました。

『愛情』の反対は何だと思おう？」

すぐさま『憎しみ』と答えたのですが不正解。

正解は『無関心』。何かの本に書いてあって、とても心に残ったのだそうです。その言葉を聞いて、私は息子のことが頭に浮かびました。

障がい児の親になって10年。その息子を通して、いろいろな人と出会ってきました。

泣いても叱らずに励まして治療してくれる歯医者さん。動いても上手に切ってくれる床屋さん。そして、「学校大好き!」にしてくれる向陽小学校の先生方…。こんなふうに穏やかな気持ちで「いってらっしゃい」と言える日が来るなんて想像さえもできませんでした。

(無理かも…)とと思っていたことが、少しずつできるようになっていく喜び。学校の音楽発表会では、みんなの中で楽しそうに歌っている姿を見ているだけで涙が出てきました。それは息子のことを理解してくれる人たちとの出会いによって経験することができたのだと感謝しています。

百人の人に理解されなくても、関心を持って愛情を注いでくれる一人に出会うことで、私も私をとりまく家族みんなも、(頑張ろう!)と前向きな気持ちになれるのです。

そんな「一人」が、私たちのまわりに増えますように。そして、自分もまた、そんな「一人」になれるように…。

娘は頑張り屋さん

成田 明子

次女は向陽小学校きこえの教室に通って6年目になりました。一昨年までは長女も同じ教室でしたが、長女が中学生になったので、今、教室では一人です。

私たちは親子とも聴覚障害者です。私たち夫婦のコミュニケーションは、ほとんど手話です。娘たちは口話が多く、次女の話が読み取れず、聞き返すとムツとした顔になることがあります。そろそろ反抗期なのでしょうか。

長女は中学に入ったあたりから、家でのお手伝いをさぼるようになり、自分の趣味に夢中になっていますが、次女は逆にお手伝いをよくするようになり助かっています。

6年生になって、きこえの教室の担任の先生と気が合うらしく、授業が楽しいようです。算数が得意で、計算はできるのですが、問題文を読む力が足りないようです。健聴者の方々は、小さい頃から自然と言葉が耳に入るので、日本語や文法は身につきます。聴覚障害者は日本語や文法が苦手な人が多いのです。

昨年、習字や版画で賞をもらったのが自慢で今年も頑張ると言っています。4年生から始めた部活(卓球部)も一日も休まず続けている、頑張り屋です。

来年、中学生になるので、普通学校の難聴学級にするか、聾学校にするか決めなければならないのですが、自分から普通中学校難聴学級を希望すると言ってきました。親が迷う前に娘が自分で決断したことはよかったですと思います。

娘二人は性格が違うので、それぞれの考えで自立して行ってほしいし、頑張ってもらいたいと思います。

教室だより

ありがたい出会いです

親子で貢献、三小バザー

八戸市立根城小学校

北村 由美子

三戸町立三戸小学校

野尻 朋子

ひばり3組は情緒学級です。初めての特別支援担当で、出会う前は「特別な支援が必要な子ども」と不安を感じていました。しかし明るい笑顔にふれて、こちらの一方的な思いこみだと気づかされました。自閉症やADHD、広汎性発達障害など、それぞれのもつ障害からくる生きにくさはあるものの、素直で優しい子どもたちです。時期をとらえて必要な支援を適切に行うことは、すべての子どもが必要としていることで、教育の基本だと感じる毎日です。

運動会では、ひばり学級17名全員が、自分の力でゴールまで走ることができました。走る前に「心臓がこわれるくらいドキドキしている。どうしてみんなは平気なんだろう。どこかに隠れてしまいたい」と話した子がいました。しかしその気持ちに打ち勝って、最後まで走る姿に感動しました。保護者の方はどのような気持ちでその姿を見ていたのだろうと思うと、胸が熱くなります。昨日はできなくても、今年クリアできたことがたくさんあるそうです。長い目で成長を見守ることの大切さを感じました。

協力学級の友達や先生、保護者の方、たくさんの人に支えられて、高学年の児童は組体操にも参加できました。仲間として声をかけ合い動きを促し合う光景は、ともに成長する姿そのものでした。ひばり学級の子どもたちとふれ合う時間は協力学級の子どもたちにとっても、かけがえのないものになっていると思います。

障害に負けずに前向きに生きる子どもたち、それを支えともに生きる保護者の方々、関わるすべての人々に感謝しています。人生観のかわる充実した日々です。

めばえの教室を担当して、5年目になります。今年度の在籍は、6年男子1名R君と2年男子1名K君の2名です。いつもなら7月に原稿提出で、1学期のことや子どもたちのことを書いていましたが、今回は、毎年11月に行われている三小バザーについて書きたいと思います。

昨年度は、11月18日(日) 午前11時～午後2時ころまで行われました。各学年で出店したり、各家庭からバザーに出してもよいものを収集して販売したりしています。特別支援教室の親の会「ひかりの会」もそれに参加しました。保護者が何を売るか相談し、各家庭で作ってきたものを販売しました。R君の家では「揚げかけ」を60袋、K君の家では、「ケーキ」(チーズ26切、チョコ22切、パウンド11切、シフォン24切)、昨年度の6年生N君の家では、「クッキー」を50袋作り、全部完売できました。

販売の用意の段階で、子どもたちも活躍しました。商品を入れる袋にラベルを貼る作業や、ひかりの会のOBの方が作ってくださったクッキーの袋詰め作業(1袋5個ずつ昨年度は446袋)をしました。この作業は、年々手際よくやれるようになってきています。バザーには、他に、OBの方が作ってくださった「スイートポテト」53袋、「マフィン」90個、町の方から寄付された「ふくろうのストラップ」36個、担任の私から「パンクンパイ」64切を出しました。販売業務は、OBの方や保護者が協力して行い、材料費を除く売上金は、62,945円で、学校のために多大な貢献をしました。

この三小バザーへの参加の取り組みは、子どもたちの作業能力を高める上で、とてもよい活動になっています。今年度も「ひかりの会」との連携を大切にして、子どもたちを育てていきたいと思っています。